

研究部会テーマ

※ 部会の最後に記している（目標）は、老人クラブの発展計画「老人クラブ21世紀プラン」における項目です。

第1研究部会 健康づくり・介護予防活動の推進（パネルディスカッション）

老人クラブでは、日頃の活動をとおして病気や事故、ねたきりや認知症を予防できると考えています。また、たとえ病気や障害があっても心身機能の保持と社会参加に努めることにより、健康で生きがいのある生活をおくることができるとの認識のもとに、健康づくり・介護予防活動をすすめています。

本年見直された介護保険制度においても、介護予防の重要性があらためて認識され、老人クラブの健康づくり・介護予防活動への期待はますます大きくなっています。

この部会では、健康づくり・介護予防活動の実践としての体力測定と、健康づくりリーダーの養成及びその活用について研究します。

- 1) 「高齢者の体力測定」の実践
- 2) 健康づくりリーダーの養成とその活用

老人クラブ「ねたきりゼロ」の10か条を実践しよう（目標1）

「いきいきクラブ体操」「健康ウォーキング」などシニア・スポーツを普及しよう（目標2）

第2研究部会 「在宅福祉を支える友愛活動」の推進

「在宅福祉を支える友愛活動」は、同世代による「話し相手」を基本とした高齢者の暮らしを支える活動です。日常的な声かけ・話し相手活動が契機になって、外出援助、家事援助、介護援助や社会福祉協議会との連携による「いきいきサロン」への取り組みなど支援の活動が広まっています。一方、介護保険制度が進み、在宅での福祉サービスが拡大するなかで、高齢者を狙った悪徳商法や詐欺事件が多発し、高齢者の生活が脅かされています。

高齢者世帯が増加するなかで、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らすために、これまでの安否確認、孤立防止、生活支援等の活動とともに、安全・安心の情報提供のネットワークづくりが求められています。会員をはじめ地域の中で友愛活動の理解を広げ、さらなる発展に向けて研究します。

- 1) 暮らしを支える日常的な友愛活動の展開
- 2) 情報を届ける友愛活動の推進
- 3) 地域団体と連携した友愛活動のネットワークづくり

1クラブ1友愛チームづくりを推進しよう（目標3）

第3研究部会 次世代育成支援活動の推進

次世代育成支援は、少子高齢社会のなかで国民的課題になっています。

老人クラブではこれまで、世代間交流や伝承活動を各クラブ・老連で広く取り組んできました。この経験を生かし、さらに発展させて「次世代育成」の視点から活動を見直し、より日常的・継続的な活動の輪を広げることや子育てに悩む親世代への支援も期待されています。高齢者の立場から次世代育成支援をどのように推進するかについて研究します。

- 1) 日常的な次世代育成支援活動の推進
- 2) 学校や地域と連携した次世代育成支援活動の実践

「老・壮・青・少・幼」の各世代が連携協力する活動を心がけよう（目標10）

第4研究部会 安全・安心のまちづくり

昨年、児童をめぐる悲惨な事件が相次いだことをきっかけにして、全国の老人クラブに「地域（子ども）見守りパトロール活動」の展開を緊急提案として呼びかけました。

地域ではこの提案を待つまでもなく、「地域の子どもは地域で守る」を合言葉に、全国の多くのクラブでパトロール活動が推進されています。

また、自然災害は繰り返し発生し、そのたびに多数の高齢者が犠牲となって、自らを守る防災の取り組みも課題となっています。さらに、高齢者を狙った悪質商法や詐欺犯罪があとを絶ちません。

防犯・防災のまちづくりにクラブ全体としてどのように対応すべきかを研究します。

- 1) 地域（子ども）見守りパトロール活動の展開
- 2) 防犯・防災のまちづくりをめざす

安全・安心のための備えを万全にしよう（目標 1 2）

第 5 研究部会 仲間をふやす活動展開

老人クラブの仲間をふやす活動について次の 3 点にわけて研究します。

まず、老人クラブの活動内容に焦点をあて、仲間をふやすことのできる活動とはどのようなものかについて検討します。

また各地で実践されている未加入高齢者への呼びかけや加入促進の取り組みについて情報交換し、研究します。

単位クラブは新設されるところもありますが、休会や解散するところもあります。単位クラブを支援する取り組みとして、特に休会・解散するクラブに対する市区町村老連や地区老連、あるいは近隣のクラブからの支援について研究します。

- 1) 仲間をふやす老人クラブ活動の展開
- 2) 未加入高齢者への呼びかけ
- 3) 休会や解散するクラブへの支援

※ この部会では、老人クラブの加入促進のための資料を持ち寄り、展示コーナーを設けます。

「高齢者の世紀」を担う会員の加入促進に努めよう（目標 1 7）

第6研究部会 若手高齢者の組織と活動

(パネルディスカッション)

わが国ではこれから高齢者が増え続け、特に団塊の世代が65歳を迎える平成27年は、「2015年問題」と言われ、社会に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

老人クラブでは、この団塊の世代を含めて、60歳代の若手高齢者の加入促進が組織的な課題となっています。この対策として、若手委員会の設置、老連大学校や健康づくり大学校等での若手リーダー養成の動きが見られますが、まだ先駆的取り組みにとどまっています。

この部会では、若手リーダーの養成を通じて、若手高齢者がいきいきと活動できる場づくりについて研究します。

- 1) 若手リーダー養成の取り組み
- 2) 若手高齢者組織の設置

高年、若手、女性のバランスのとれた役員構成としよう(目標13)

(説明抜粋) 青年部など内部に若手組織を設けることも検討してみよう
各連合会に女性委員会などの専門委員会(部)を設置しよう(目標18)

(ポイント) 若手会員の運営への参画をすすめる

(説明抜粋) 若手リーダーの登用をはかることを積極的に考えてみよう

第7研究部会 演じる ― 創作発表活動

老人クラブで取り組まれている「演じる」活動は、日頃の活動の成果を発表する場として多くのクラブ・老連で実施されています。

この部会では、舞台発表と合わせて、これまでの活動報告と発表者による懇談会を実施することにより、「演じる」楽しさ、発表する喜びを共有し、今後の「演じる」活動の展開について研究します。

(なお、ここで「演じる」ものは、演劇、人形劇、コーラス、器楽演奏、ダンス等のどの地域でもできる普遍性のあるものとします。)